

ぶどう短梢栽培用平棚における「エーデルロツソ」の仕立法

【1 成果の内容】

- (1) 短梢栽培用平棚を利用して「エーデルロツソ」を栽培する場合は、結果母枝を3～13芽残してせん定し主枝に結束する中～長梢せん定（図1）を行うことにより、長梢栽培用平棚を利用した場合と同等の収量及び果実品質を得ることが可能です（表1）。
- (2) 「エーデルロツソ」の結果母枝の第1及び第2節位の発芽・花穂着生率は、年により低いことがあるため、本品種に短梢せん定は適しません。

表1 果実品質および収量(2012年～2015年の平均値)

せん定方法	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸度 (g/100ml)	収量/10a (kg)
短梢せん定	258	10.0	19.4	0.50	1094
中～長梢せん定	272	9.8	19.3	0.49	1122
長梢せん定（長梢棚）	256	9.7	20.1	0.43	1144

※短梢せん定及び中～長梢せん定区は短梢棚の2006年植栽樹、長梢せん定区は長梢棚の2002年植栽樹を供試。

※長梢せん定区の果実品質は2012～2013年及び2015年、収量は2013年及び2015年の平均値。

表2 短梢せん定における節位別発芽・花穂着生率（%）

節位	2013年		2014年		2015年	
	発芽率	花穂着生率	発芽率	花穂着生率	発芽率	花穂着生率
第1節位	98.6	61.9	90.0	69.4	65.0	42.5
第2節位	95.2	72.0	95.0	76.3	92.5	82.5
結果母枝毎	99.3	84.5	100	80.0	95.0	92.5

【2 留意事項】

- (1) 本試験では、短梢棚においてH型整枝とし、新梢本数は中～長梢・短梢せん定とも15本/3.3m²としました。
- (2) 中～長梢せん定では、樹の水上げ開始後に結果母枝を主枝の基部方向に返して結束します（図1）。なお、果房の着生位置は主枝から30cm程度離れるため、短梢棚の支線はそれ以上とします。
- (3) 中～長梢せん定では、結果母枝の基部に近い芽は結果母枝を更新するために養成します。
- (4) 花穂整形方法及び着果量調整は、平成25年度試験研究成果「ぶどう品種「エーデルロツソ」の花穂整形方法と適正着果量」により行います。

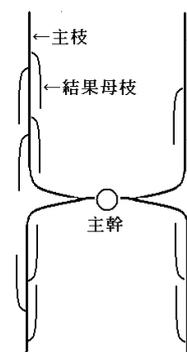


図1 短梢栽培用平棚における中～長梢せん定